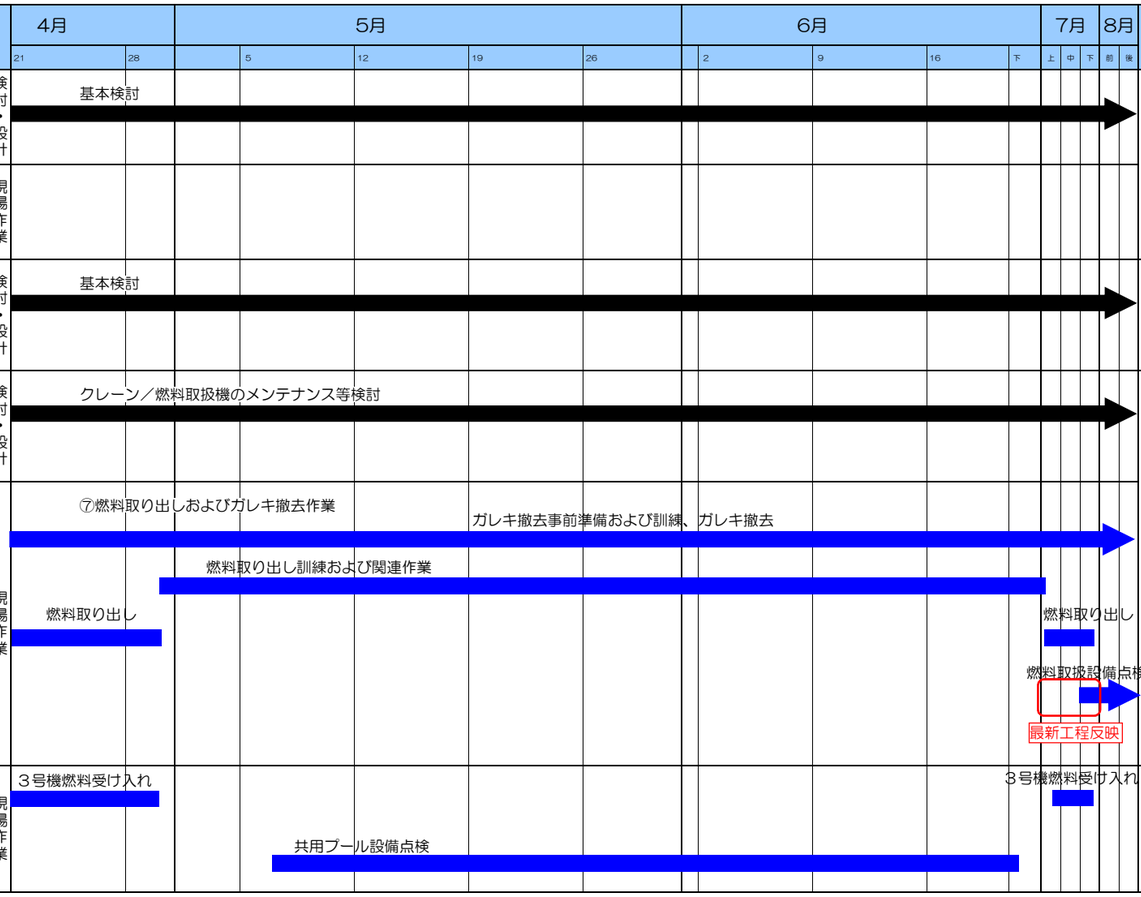
使用済燃料プール対策　スケジュール

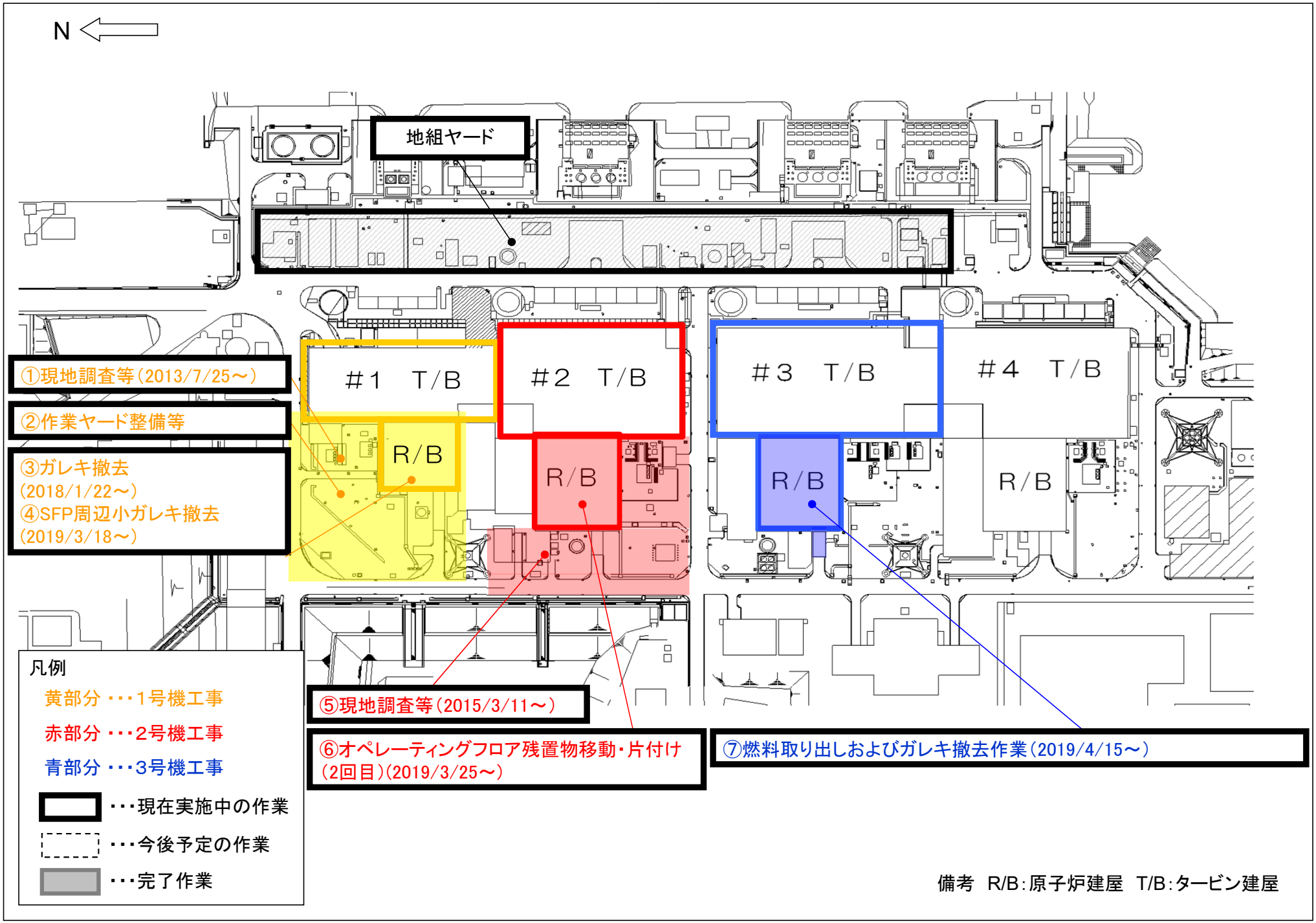
分野名	括り	作業内容		これまで1ヶ月の動きと今後1ヶ月の予定		4月	5月	6月	7月	8月	備　考
						21 28	5 12 19 26	2 9 16 下	上 中 下	前 後	
使用済燃料プール対策	カバー	燃料取り出し用カバーの詳細設計の検討 原子炉建屋上部のガレキの撤去 燃料取り出し用カバーの設置工事	1号機	（実　績） ・燃料取り出し方法の基本検討 ・現地調査等 ・作業ヤード整備 ・ガレキ撤去 ・SFP周辺小ガレキ撤去 （予　定） ・燃料取り出し方法の基本検討 ・現地調査等 ・作業ヤード整備 ・ガレキ撤去 ・SFP周辺小ガレキ撤去	検討・設計	基本設計 ガレキ状況調査結果等の分析・評価、ガレキ撤去計画の継続検討					【主要工程】 ○ガレキ撤去 ・ガレキ撤去：'18/1/22～ ・Xブレース撤去準備：'18/5/10～'18/9/18 ・Xブレース撤去：'18/9/19～'18/12/20 ・オペレーティングフロア調査：'18/7/23～'18/8/2 ・機器ハッチ養生：'19/1/11～'19/3/6 ・屋根鉄骨分断：'19/2/5～'19/2/22 ・SFP周辺小ガレキ撤去：'19/3/18～ 【規制庁関連】 ・オペレーティングフロア床上ガレキの一部撤去等　実施計画変更認可（2019/3/1） ※○番号は、別紙配置図と対応
					現場作業	①現地調査等（'13/7/25～） ②作業ヤード整備 等 ③ガレキ撤去 ④SFP周辺小ガレキ撤去					
			2号機	（実　績） ・燃料取り出し方法の基本検討(SFP養生・オペフロ残置物撤去方法の検討含む) ・現地調査等 ・オペレーティングフロア残置物移動・片付け後調査 （予　定） ・燃料取り出し方法の基本検討 ・現地調査等 ・オペレーティングフロア残置物移動・片付け（その2）	検討・設計	基本検討					【主要工程】 ・燃料取り出し計画の選択：継続検討 ・ヤード整備工事　：'15/3/11～'16/11/30 ・西側構台設置工事：'16/9/28～'17/2/18 ・前室設置工事　　：'17/3/3～'17/5/16 ・屋根保護層撤去（遠隔重機作業）：'18/1/22～'18/5/11 ・オペレーティングフロア西側外壁開口：'18/4/16～'18/6/21 ・鉄骨トラス状況確認：'18/2/28～18/3/17 ・オペレーティングフロア調査：'18/6/25～'18/7/18 ・オペレーティングフロア残置物移動・片付け：'18/8/23～'18/11/6 ・オペレーティングフロア残置物移動・片付け後調査と片付け：'18/11/14～'19/2/28 ・西側構台設備点検：'19/2/13～'19/3/26 ・オペレーティングフロア残置物移動・片付け（2回目）：'19/3/25～ 【規制庁関連】 ・西側外壁開口設置 実施計画変更認可（2017/12/21） ※○番号は、別紙配置図と対応
					現場作業	⑤現地調査等 ⑥オペレーティングフロア残置物移動・片付（2回目） オペフロ内作業 現場資機材片付					
			3号機	（実　績） ・－ （予　定） ・－	検討・設計						【主要工程】 ・竣工（建築工事）'18/10/31
					現場作業						
	周辺環境	1/2号機共用排気筒解体		（実　績） ・実証試験 ・準備工事（周辺設備養生等） ・排気筒事前調査 （予　定） ・準備工事（吊り上げ高さ確保対策） ・排気筒解体工事	検討・設計	実証試験					【主要工程】 ・実証試験：'18/8/28～'19/4/2 ・準備工事：'18/12/3～'19/7/下 ・排気筒事前調査：'19/4/2～'19/4/18 ・排気筒解体工事：'19/7/下～ 【規制庁関連】 ・1/2号機排気筒解体 実施計画変更認可('19/2/27)
					現場作業	準備工事（周辺設備養生等） クレーン吊り上げ高さ確保対策を追加するために工程見直し 吊り上げ高さ確保対策に伴い解体工事期間も変更 解体工事					
		海洋汚染防止対策等		（実　績） ・詳細設計 ・準備工事（作業ヤード整備等） （予　定） ・詳細設計 ・ガレキ撤去等（タービン建屋）	検討・設計	詳細設計					【主要工程】 ・2号機周辺建屋屋根面の雨水対策工事を設計中 ・準備工事（作業ヤード整備等）：'18/10/18～'19/3/24 ・2号機T/B下屋ガレキ等撤去：'19/3/25～
					現場作業	2号機T/B下屋ガレキ等撤去					

使用済燃料プール対策　スケジュール

分野名	括り	作業内容		これまで１ヶ月の動きと今後１ヶ月の予定		備　考
使用済燃料プール対策	燃料取扱設備	クレーン／燃料取扱機の設計・製作 プール内ガレキの撤去、燃料調査等	1号機	（実　績） ・燃料取り出し方法の基本検討 （予　定） ・燃料取り出し方法の基本検討	検討・設計 現場作業	【主要工程】 ・燃料取り出し計画の選択：2014年10月 →プール燃料取り出しに特化したプランを選択 ・ガレキ撤去計画継続検討
			2号機	（実　績） ・燃料取り出し方法の基本検討 （予　定） ・燃料取り出し方法の基本検討	検討・設計	【主要工程】 ・燃料取り出し計画の選択：継続検討
			3号機	（実　績） ・クレーン／燃料取扱機のメンテナンス等検討 ・ガレキ撤去事前準備および訓練、ガレキ撤去 ・燃料取り出し訓練および関連作業 ・燃料取り出し （予　定） ・クレーン／燃料取扱機のメンテナンス等検討 ・ガレキ撤去事前準備および訓練、ガレキ撤去 ・燃料取り出し訓練および関連作業	検討・設計 現場作業	【主要工程】 ○クレーン／燃料取扱機等設置工事： ・クレーン／燃料取扱機及び関連設備設置：'17/9/11～'19/4/13 ○燃料取り出しおよびガレキ撤去作業 ： ・ガレキ撤去事前準備：'19/2/15～'19/3/14 ・訓練、ガレキ撤去：'19/3/15～ ・燃料取り出し訓練および関連作業：'19/2/14～ ・燃料取り出し：'19/4/15～ 【規制庁関連】 ・３号機燃料取り出し、燃料の取り扱い及び構内用輸送容器 実施計画変更認可申請（2018/3/27） 実施計画変更認可申請の一部補正（2019/2/15） 実施計画変更認可申請の認可（2019/3/12） ・３号機プール内小ガレキ撤去、エリアモニタ、ダストモニタ 実施計画変更認可申請の一部補正（2018/4/13）、認可（6/8）
	共用プール	共用プール燃料取り出し		（実　績） ・３号機燃料受け入れ ・共用プール設備点検 （予　定） ・共用プール設備点検	現場作業	【主要工程】 ○共用プール設備点検： ・クレーン点検：'19/4/8～'19/4/15 ・燃料取扱機点検：'19/5/7～



1，2，3号機 原子炉建屋上部瓦礫撤去工事 燃料取り出し用カバー工事 他 作業エリア配置図



2号機燃料取り出し工法の検討状況について

2019/5/30

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

１．経緯

TEPCO

- 2号機原子炉建屋のプール燃料取り出しは適切な時期に「デブリ取り出し共用コンテナ案」と「プール燃料取り出し特化案」の2案よりプラン選択することとしている。
- 当初，既設の天クレ・FHMを復旧(分解・除染・補修等)することを検討していたが，オペレーティングフロア（以下，オペフロ）内の線量が高いことから，2015年11月に既設の天クレ・FHMの復旧は難しく，建屋上部の解体が必要と判断した。
- 2018年11月～2019年2月に実施したオペフロ内調査では，2011～2012年に実施した調査結果と比較すると線量が低減している傾向が確認された。（2019年2月28日 チーム会合事務局会議にて報告済み）
- 上記の調査結果を踏まえ，遮へい等を適切に実施することによりオペフロ内でも限定的な作業であれば実施できる見通しが得られた。

建屋解体時のダスト飛散リスクを更に低減する工法も含め，プラン検討を進めている。

２．検討コンセプト

TEPCO

■ プラン検討に当たっては、以下の４つの重点項目を中心に総合的に評価し燃料取り出し工法を検討する。

1. ダスト飛散対策

✓ 原子炉建屋解体時のダスト飛散リスクがより低い工法を検討する。

2. 作業員被ばく

✓ 2018年11月～2019年2月に実施したオペフロ内調査では，過去の線量調査結果に比べて，線量が低減している傾向が確認できたが，依然として高い線量環境であることから，作業員被ばくをより低減できる工法を検討する。

3. 雨水対策

✓ 建屋滞留水の流入抑制の観点で，燃料取り出し関連工事の際にも，より建屋に流入する雨水が低減できる工法を検討する。

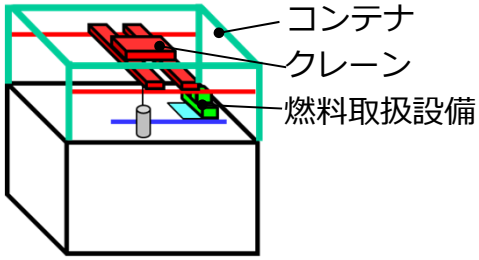
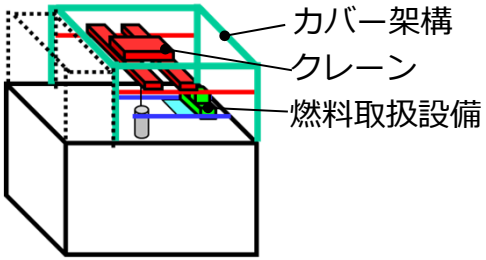
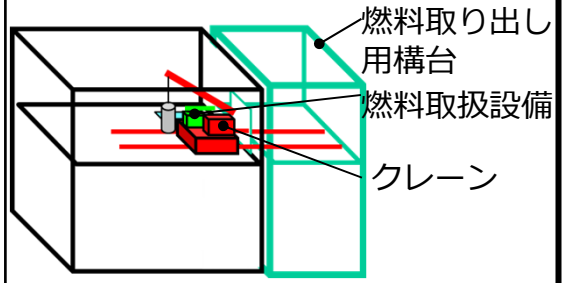
4. 工事ヤード

✓ ２号機原子炉建屋周辺では，炉内調査や排気筒解体等，多くの廃炉作業が並行して行われていることから，他の廃炉作業への工事影響が少ない工法を検討する。

3．検討プラン概要

TEPCO

■ プール燃料取り出し特化案は，原子炉建屋上部を全面解体する工法(プランA)に加え，オペフロ上部をできるだけ解体せず南側からのアクセスする工法(プランB)の2案を検討していく。

プラン名	デブリ取り出し共用コンテナ案（オペフロ上部解体）	プール燃料取り出し特化案	
		プランA(オペフロ上部解体)	プランB(オペフロ上部残置)
イメージ			
概要	**オペフロ上部を全面解体**して，デブリ取り出し時にも使用可能な架構(コンテナ)を設置	**オペフロ上部を全面解体**して，燃料取り出しに必要最小限なカバー架構を設置	**オペフロ南側開口**を設置し，南側からオペフロ内にアクセスする構台を設置
ダスト飛散	• 上部建屋を解体するため，ﾀﾞｽﾄ飛散抑制と監視により対策。 • 解体時も敷地境界への影響が小さいことは評価済み。		• 原子炉建屋内及び構台内で管理した状態での作業が可能
作業員被ばく	• 上部建屋を解体するため，作業員被ばくが多くなると想定。		• 上部建屋を解体しないため，作業員被ばくが抑えられると想定。
雨水対策	• 上部建屋を解体するため，滞留水増加抑制のための雨水対策（仮設のカバー設置など）が必要。		• 上部建屋を解体しないため，雨水流入はしない。
工事ヤード	• 上部建屋解体・カバー架構設置にあたって，西側・南側のヤードを占有し，他工事との調整が課題。		• 主な工事ヤードは原子炉建屋南側になるため，他工事で西側ヤードを共有しやすい。

福島第一原子力発電所
1/2号機排気筒解体用クレーンの高さ調整作業について

2019年5月30日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

１．概要

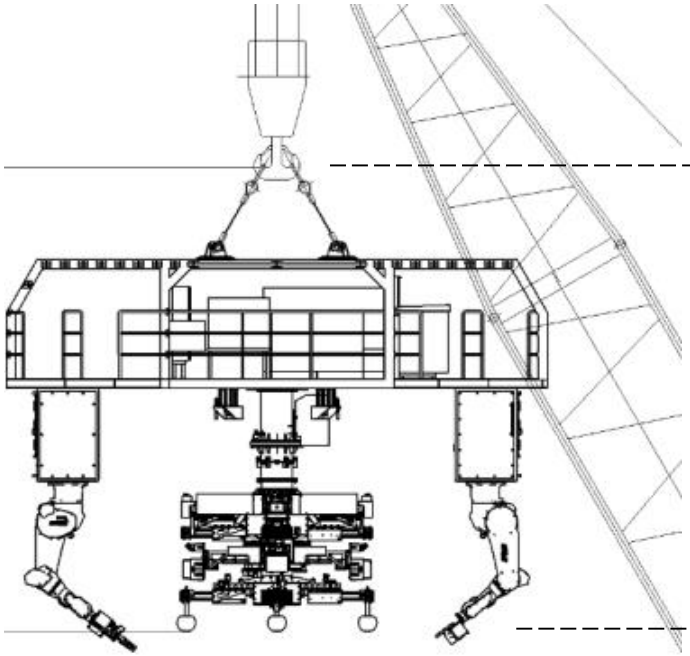
TEPCO

- 1/2号機排気筒については，4月2日に福島第一原子力発電所構外での実証試験を完了し，4月13日，18日に，解体前調査として，筒身内部及び周辺の雰囲気線量測定やカメラによる内部状況の撮影を行い，現在の解体工事計画に支障が無いことを確認した。
- 5月9日に解体工事に使用予定であったクレーンの修理が完了したことから，５月11日に解体装置が最頂部に設置可能か確認を行ったところ，計画時の吊り代※と実際の吊り代に差異があり，クレーンの吊り上げ可能高さを伸ばす必要があると判断した。
  ※クレーンのフックから排気筒頂部までの距離
- 吊り代の差異を踏まえ，6月からクレーン吊り上げ可能高さ確保対策のひとつとして路盤整備工事を実施する予定。(約２ヶ月程度掛かる見通し)
- 路盤整備工事，総合動作試験が完了次第，解体装置が排気筒頂部に設置可能か最終確認し，排気筒解体工事に着手する計画。

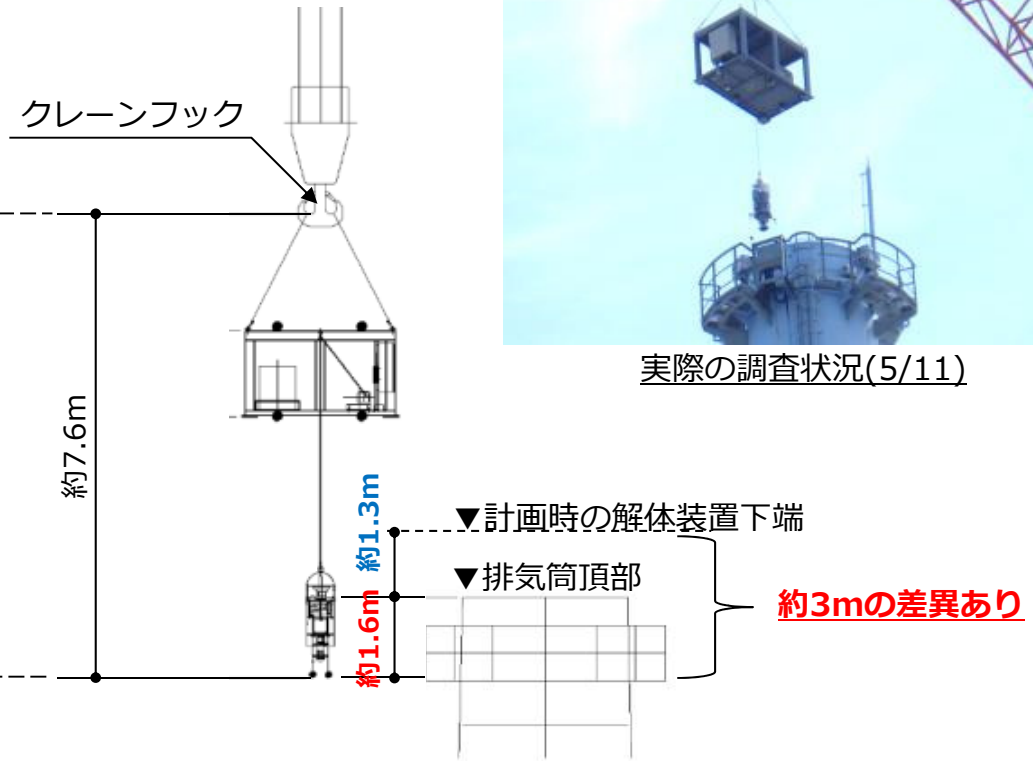
２－１．クレーン吊り上げ高さの確認について（概要）

TEPCO

- 1/2号機排気筒解体工事については，解体準備作業として，4月25日に装置組立を完了し，5月9日に解体工事に使用するクレーンの修理が完了していた。
- クレーンの修理が完了したことから，5月11日に解体装置が最頂部に設置可能か確認するため，事前調査で使用した機材を使用し確認作業を行ったところ，計画時の吊り代と実際の吊り代に差異があり，最頂部に装置を設置できない可能性があることを確認した。
- 5月11日の吊り代確認結果の検証や解体装置高さの調整検討を行ったが，5月13日にクレーンの吊り上げ可能高さを伸ばす必要があると判断した。



解体装置外形図



解体装置高さを模擬した調査機材

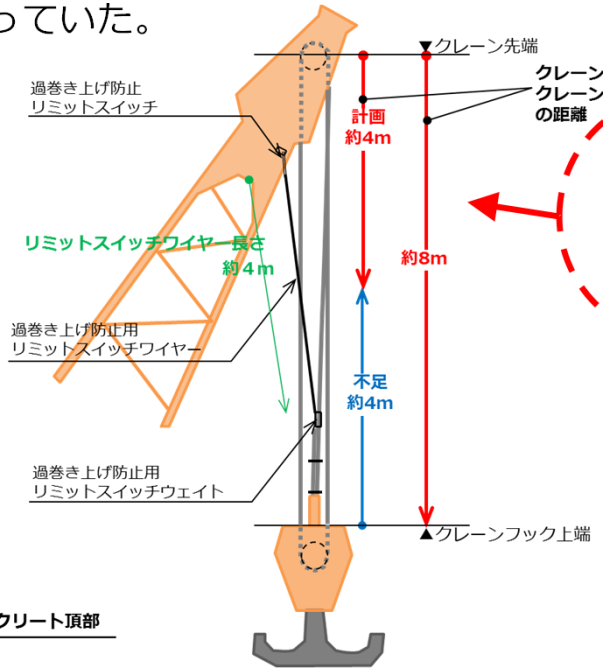
実際の調査状況(5/11)

２－２．クレーン吊り上げ高さの確認について（検証結果）

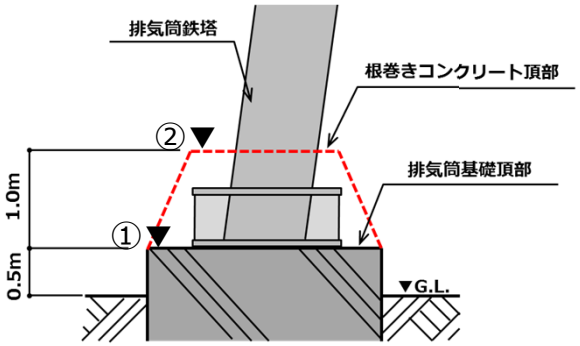
TEPCO

- 各所の高さの計測より，最大巻き上げ時のワイヤー長さに，計画と約4mの差異があることが判明した。
- この差異が発生した要因は、リミットスイッチワイヤーの長さ約４ｍを、誤ってクレーン先端からフック上端までの距離約４ｍとして計画してしまったため、実際のワイヤー長さ約８ｍに対し、約４ｍの差異が発生した。
- なお，排気筒基礎位置を実際よりも１ｍ高い位置に設定していたため，5月11日の確認作業時には，計画値からの差異が約3mとなっていた。

※リミットスイッチ：フックを止めるセンサー

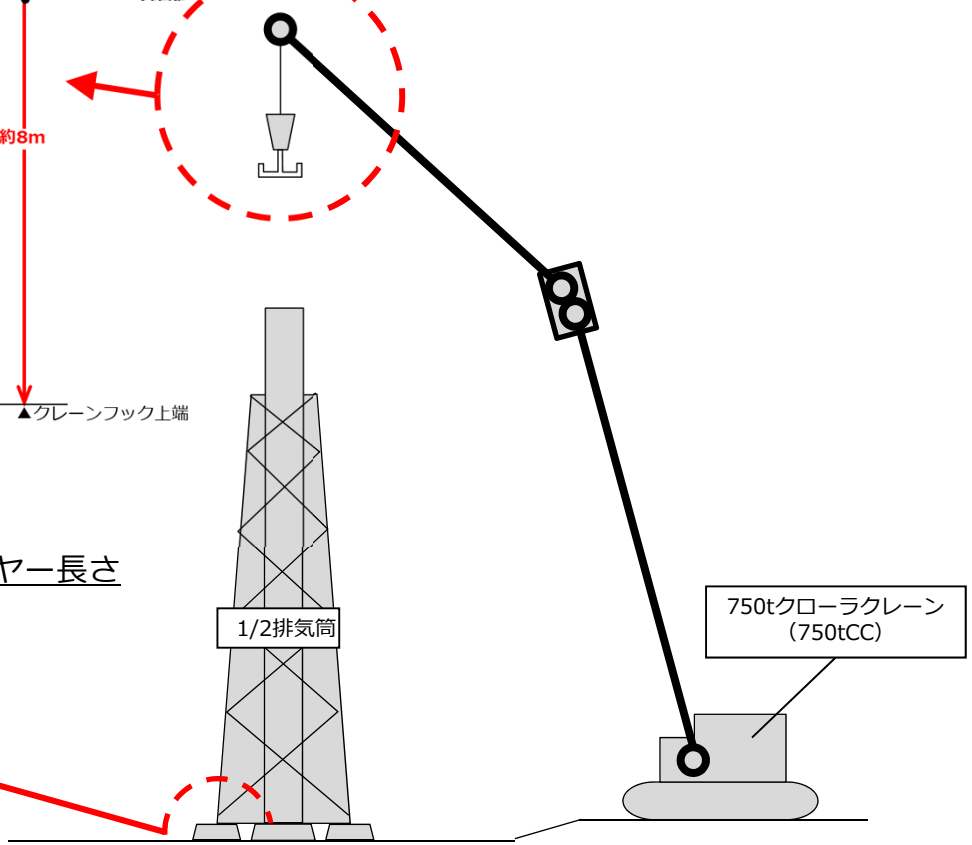


計画と実際のワイヤー長さ



※現場で鉄塔基礎天端の高さ【①】を測量したと思ったが，実際測量した位置は鉄塔基礎天端から1m高い位置【②】(鉄塔脚部の根巻きコンクリート天端)であり，誤った情報を図面へ反映した。

排気筒鉄塔基礎 現況図



解体イメージ図

２－３．クレーン吊り上げ高さ差異の原因

TEPCO

最大巻き上げ時のワイヤー長さが計画と異なった原因

- 本計画の最初の段階で，別工事の計画検討でゼネコンが使用していたクレーン計画図を当社が詳細の確認を行わずに，排気筒解体工事を計画検討する協力会社に提示し，協力会社はそのクレーン計画図を使用して計画検討を進めた。（この時点で，実機と計画の差異が生じており，結果して吊り上げ高さは不足していた）
- その後，クレーン高さに余裕が少ない計画だったこともあり，協力会社は，計画と実機の差異が無いか確認するため，構内クレーンのメンテナンス会社に問い合わせをしたが，メーカーや型式によりリミットスイッチ位置が異なることもあり，提示された寸法を誤った位置の寸法と理解した。（p.3）（実機と計画との差異は更に大きくなった）
- 当社は，高さ方向の施工計画は計画図で確認できると判断し，クレーンのリミットスイッチ位置等の詳細位置の確認(施工図・現場確認)を行わなかった。

基礎位置を実際より約1m高く計画した原因

- 協力会社は，排気筒のG.L.±0が正確に確認できないため，鉄塔基礎天端を基準として作図しようと考え，現場で鉄塔基礎天端の高さを測量したと思ったが，実際測量した位置は鉄塔基礎天端から1m高い位置（鉄塔脚部の根巻きコンクリート天端）であり，その誤った情報を計画図へ反映し，当社も施工図等で高さの設定根拠を確認していなかった。（p.3）

➔ 今回工事における当社・協力会社・その他関連会社の役割分担が不明確な点もあり，引き続き当該事象だけに限定せず，コミュニケーションの問題も含め背後要因の深掘りを行い，適切に対策をしていく。

３－１．クレーン吊り上げ可能高さの確保について（１）

TEPCO

- クレーン吊り上げ可能高さ確保対策は以下の２案

  対策①：クレーンを排気筒に近づける

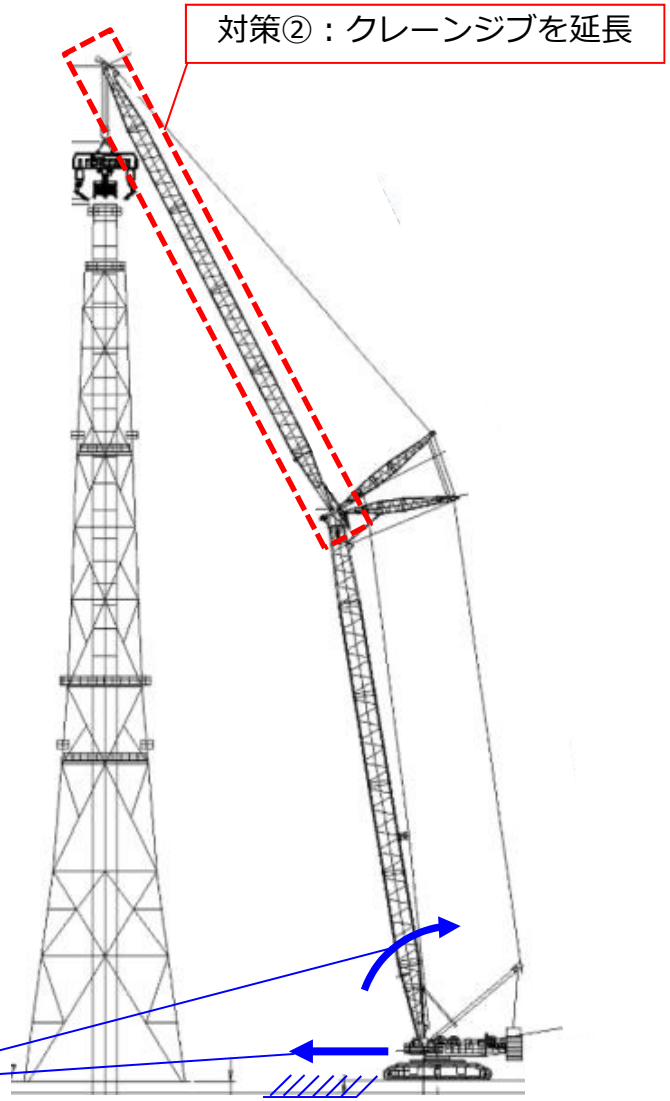
  （同時にブーム・ジブを起こす。前進範囲は段差があることから路盤整備が必要）

  対策②：クレーンジブを延長する（クレーンジブ延長状態では吊上げ荷重の大きい部位の解体作業時に揚重能力が不足することから、解体期間中に再度クレーンジブの短縮が必要）

- 解体装置実機を用いたクレーン吊り上げ高さや吊り荷重確認を行い対策①の成立性を確認※できたこと，及び次頁に示す理由から対策①を実施する。

※対策①の成立性確認

- 解体装置そのものを吊上げて，解体作業時を再現し，吊り代を測定
- クレーン旋回範囲と設備の離隔、クレーン配置を現地実測



※路盤整備

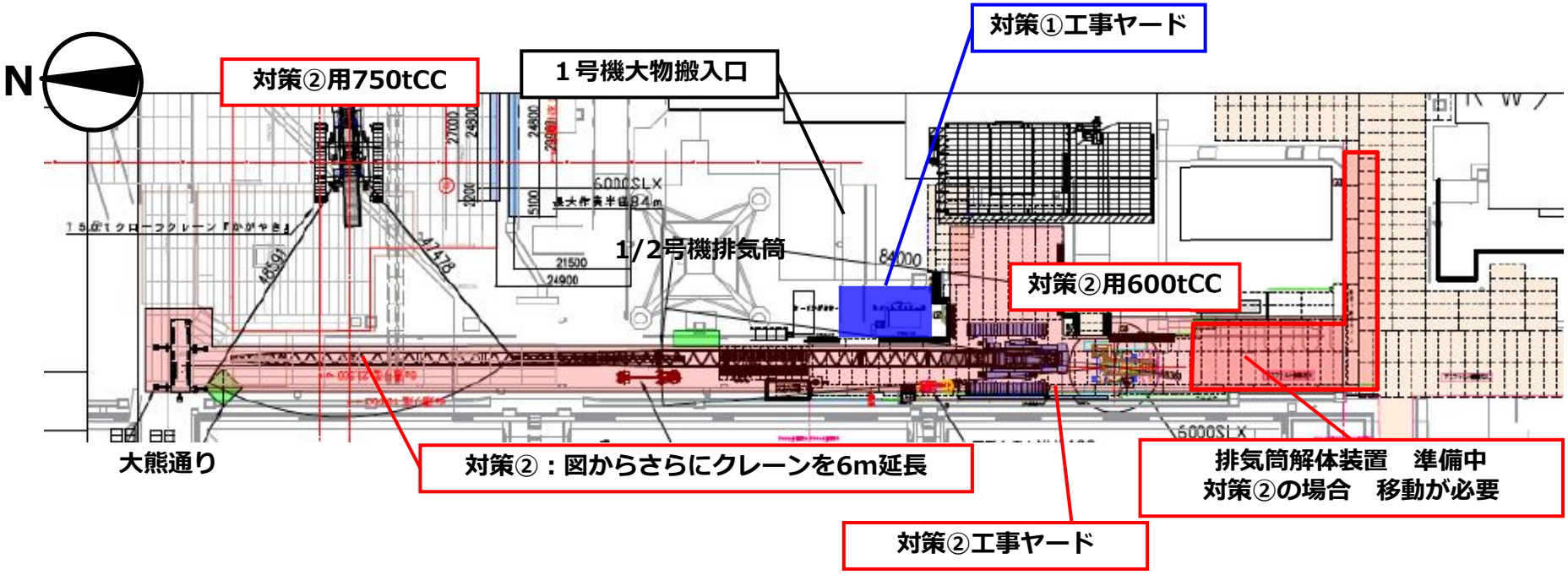
クレーン吊り上げ可能高さの確保策

３－１．クレーン吊り上げ可能高さの確保について（２）

TEPCO

■ 以下の理由により、対策①：排気筒にクレーンを近づける（路盤整備工事）を実施する。

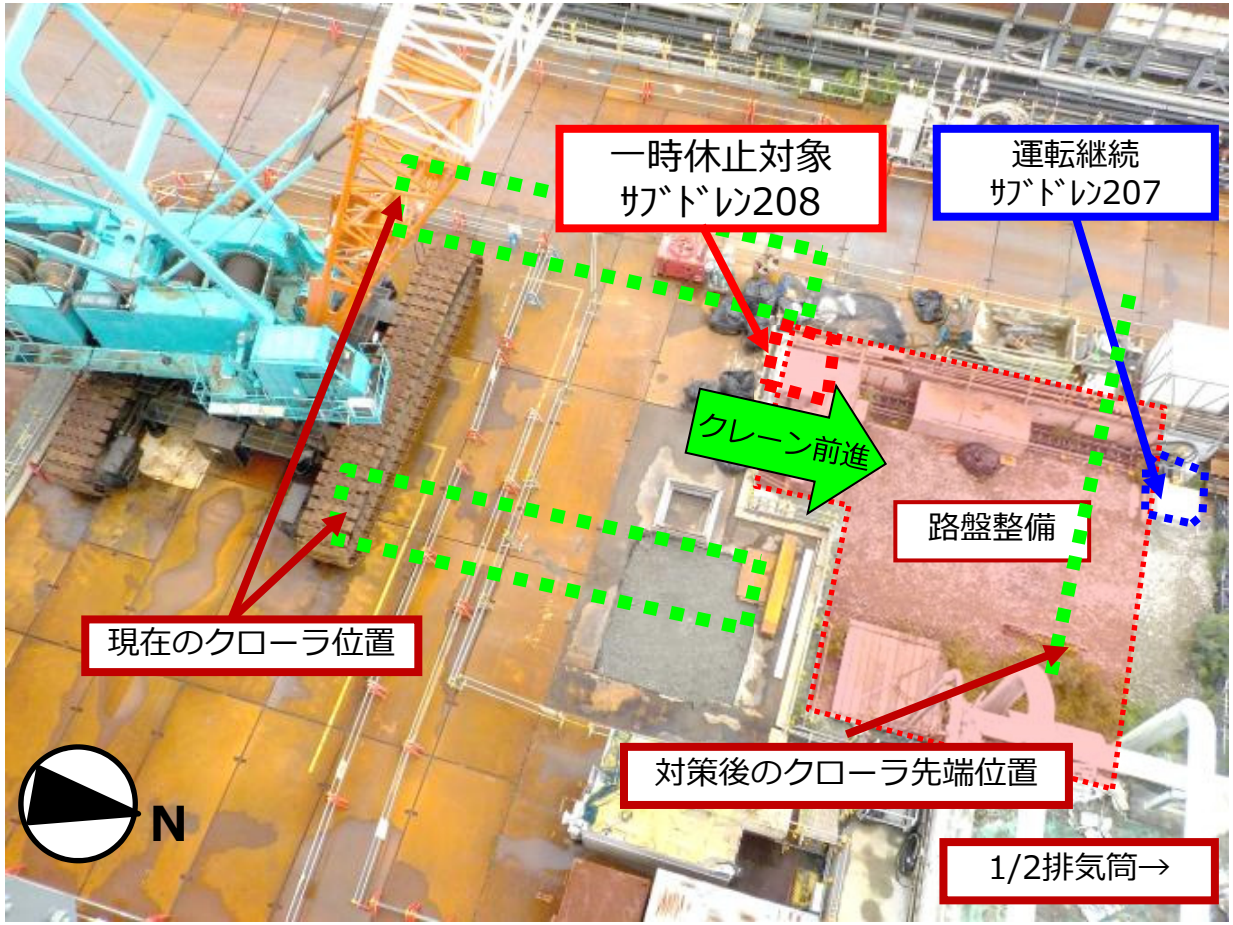
- 対策②とした場合，狭小な道路上で輻輳した工事となるため，対策①の方が，安全性・作業性に優れる。
- 対策①は対策②と比べ、作業員の被ばく量が小さい。
- 対策①と比べ、対策②は他の廃炉作業（1号機R/Bガレキ撤去、1号機PCV内部調査等）への影響が大きい。



３－２．対策①の概要

TEPCO

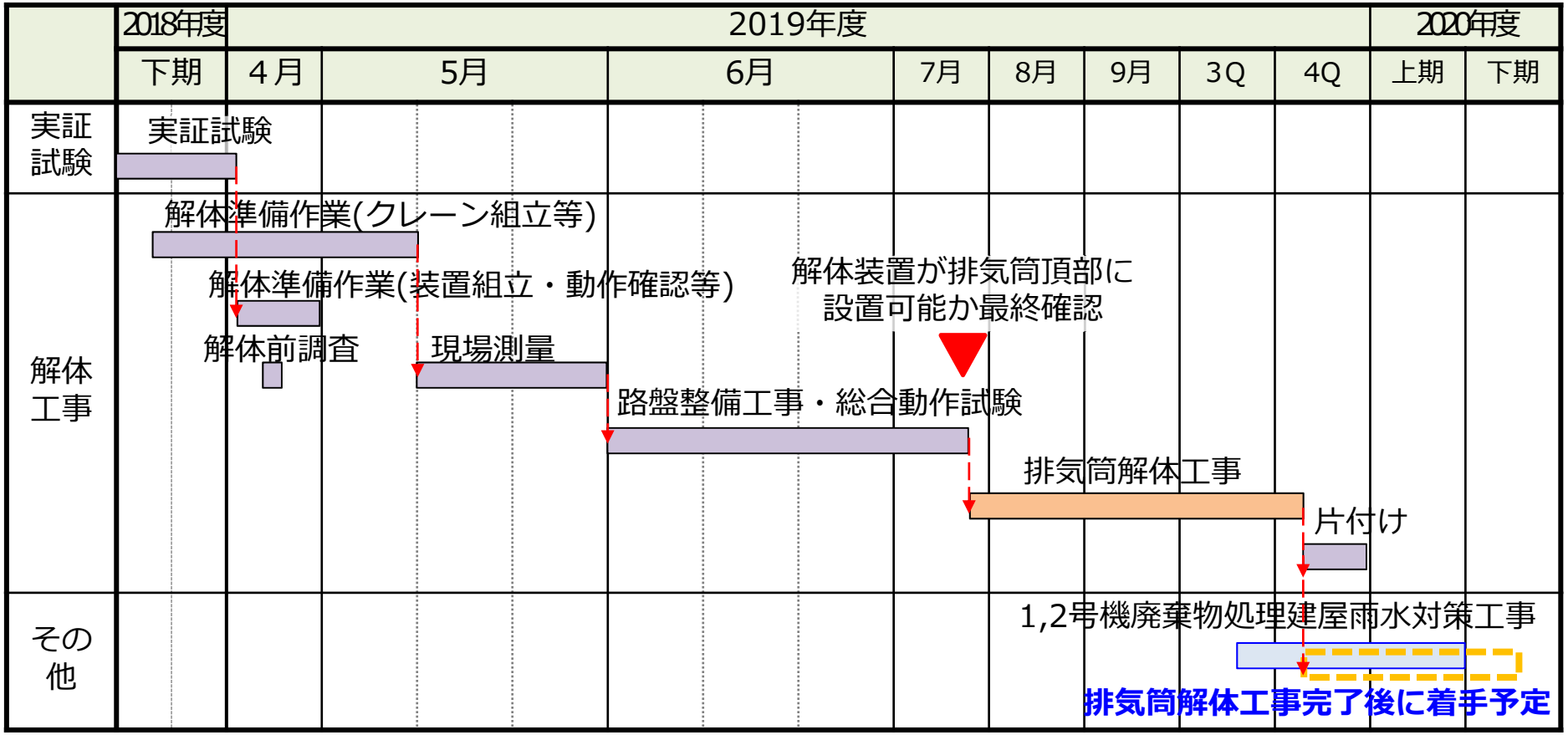
- クレーンを排気筒に近づける必要がある為、１／２号機排気筒南側の路盤整備を行う。
- 路盤整備として，鉄骨の敷並べ・砕石埋め・鉄板敷設を行う。
- クレーンの移動に伴いサブドレン208を一時的に休止 (約2ヶ月)する。影響を最小限とするよう，高所部の解体が完了後，速やかに元の位置にクレーンを戻してサブドレン208を復旧する計画とする。



４．スケジュール

TEPCO

- 5月末にかけて現場測量を実施し，6月から対策①に必要な路盤整備工事を実施する。(2ヶ月程度かかる見通し。)
- 路盤整備工事・総合動作試験が完了次第，解体装置が排気筒頂部に設置可能か最終確認し、7月下旬を目標に排気筒解体工事に着手予定。
- 今回の工程見直しにより、排気筒解体後に予定している1,2号機廃棄物処理建屋雨水対策工事の着手時期も遅れる見込み。両工事の短縮ならびに並行作業について検討していく。

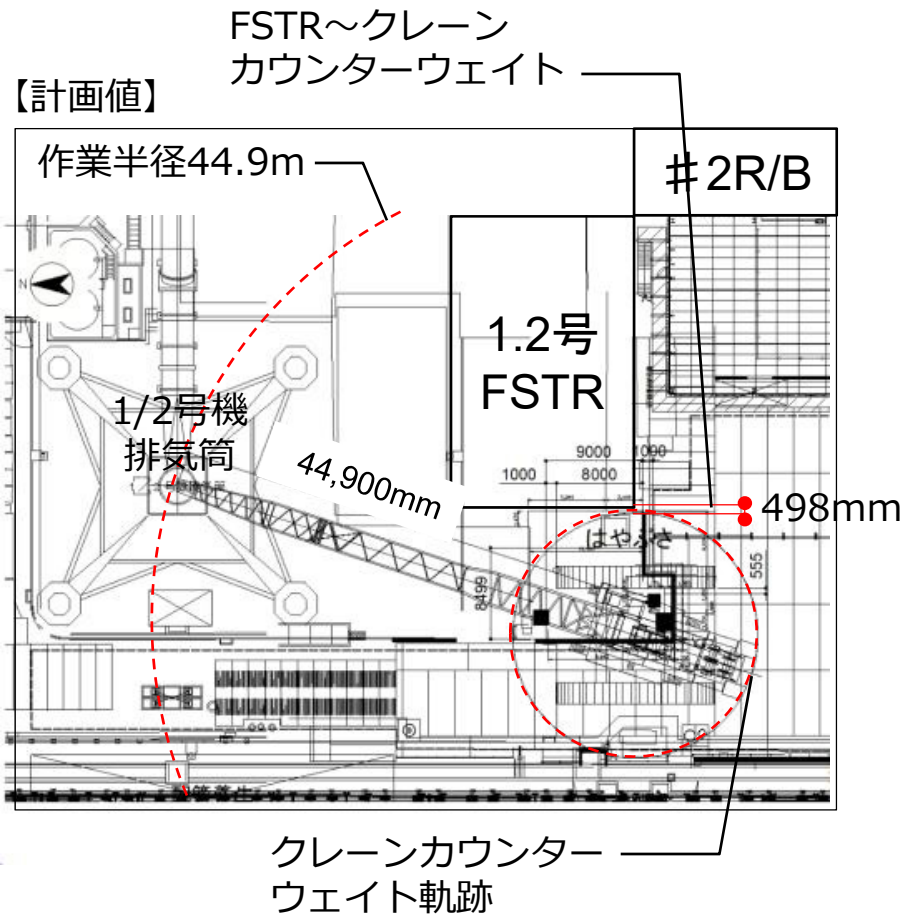


（参考）実機による確認、実測結果（配置）

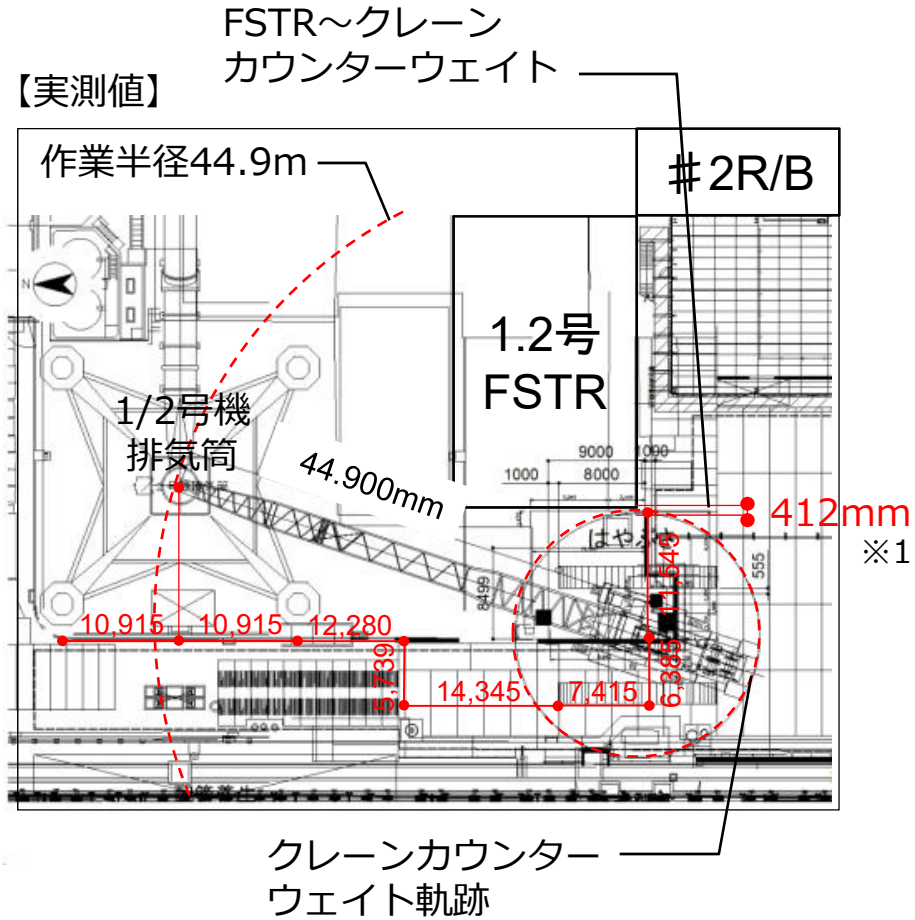
TEPCO

■ 路盤整備をした時の実機に於けるクレーンの中心点からカウンターウエイトの位置を実測した結果，FSTR建屋とカウンターウエイト間は計画値498mmに対し，実測値で412mmとなった。

【計画値】



【実測値】

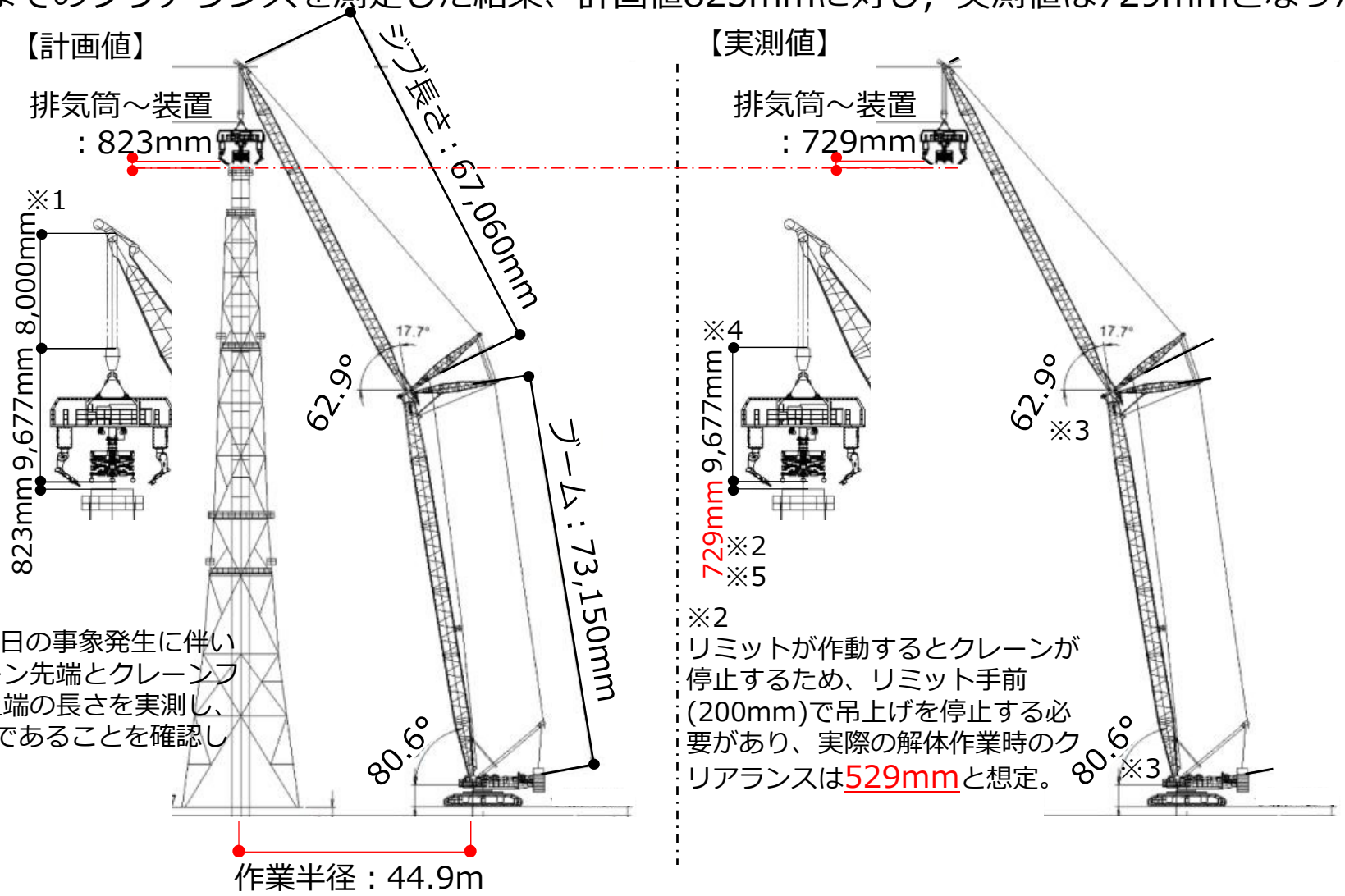


※1トランシットにて計測

（参考）実機による確認、実測結果（高さ）

TEPCO

■ 排気筒から離れた位置で、クレーンを排気筒に近づける（対策① ）場合のブーム，ジブ角度を再現し，解体装置実機を吊り上げ，リミットスイッチ作動時の排気筒頂部から解体装置までのクリアランスを測定した結果、計画値823mmに対し，実測値は729mmとなった。



※１.
5月11日の事象発生に伴いクレーン先端とクレーンフック上端の長さを実測し、8.0mであることを確認した。

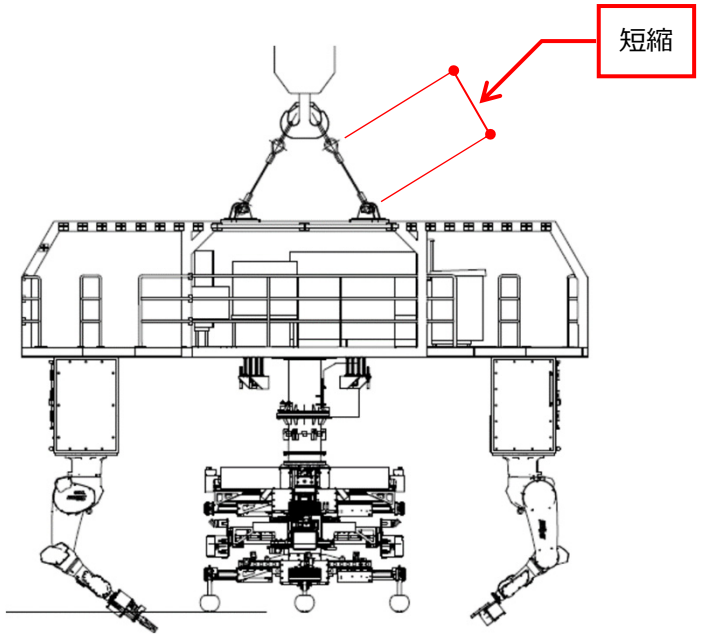
※2
リミットが作動するとクレーンが停止するため、リミット手前(200mm)で吊上げを停止する必要があり、実際の解体作業時のクリアランスは529mmと想定。

※3：クレーン運転席表示値　※4：メジャーにて計測　※5：光波測定器にて計測

（参考）クレーン吊り上げ高さ確保に向けた更なる検討について

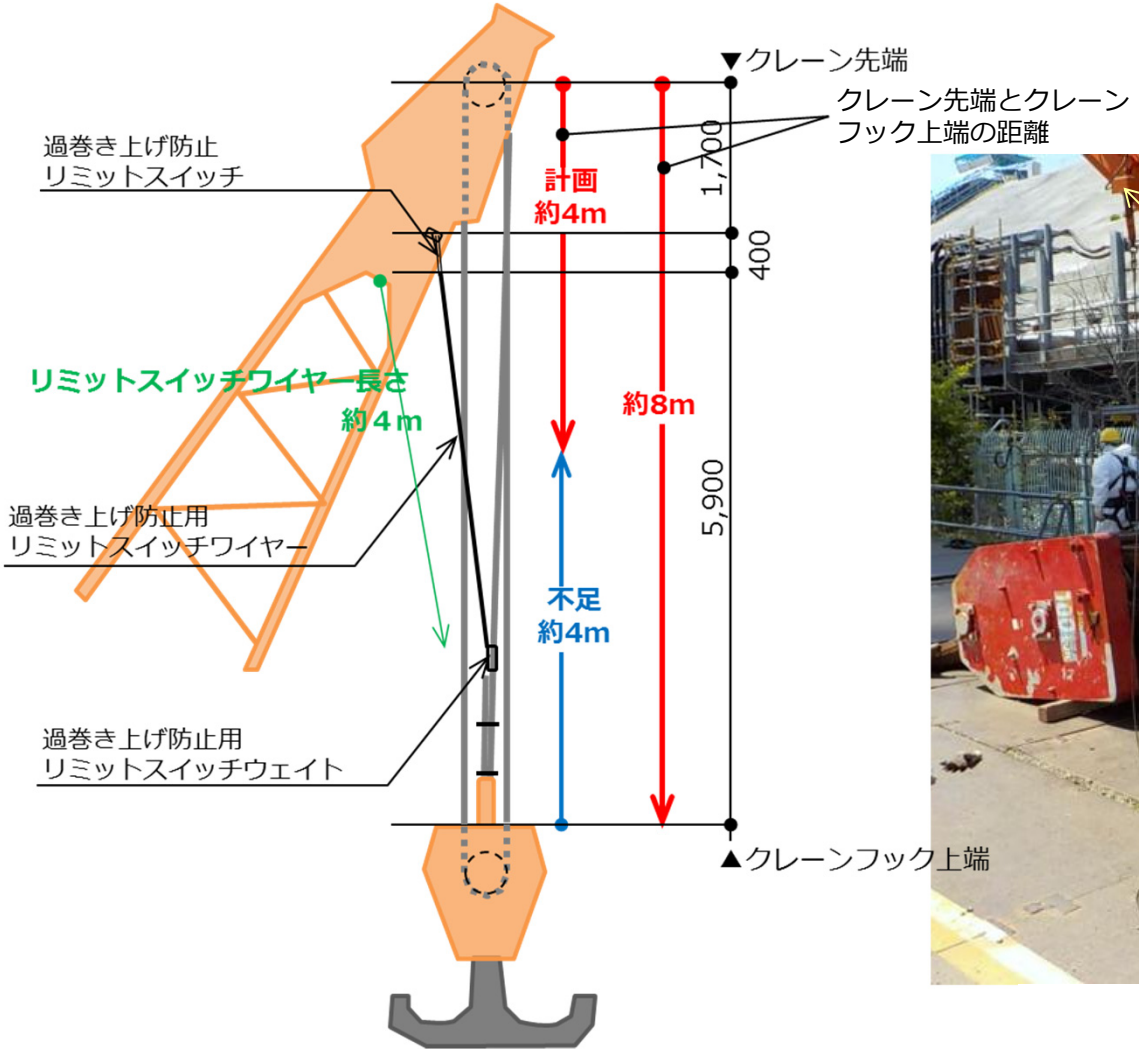
- 排気筒頂部から解体装置までのクリアランスが実測値で729mmのため、吊り上げ高さ確保に向けた更なる検討を以下に示す。

安全，基準を確保した状態で各所を短縮することを検討
例．解体装置の吊りワイヤー長さの短縮



解体装置の吊りワイヤー長さの短縮

（参考）クレーン先端図



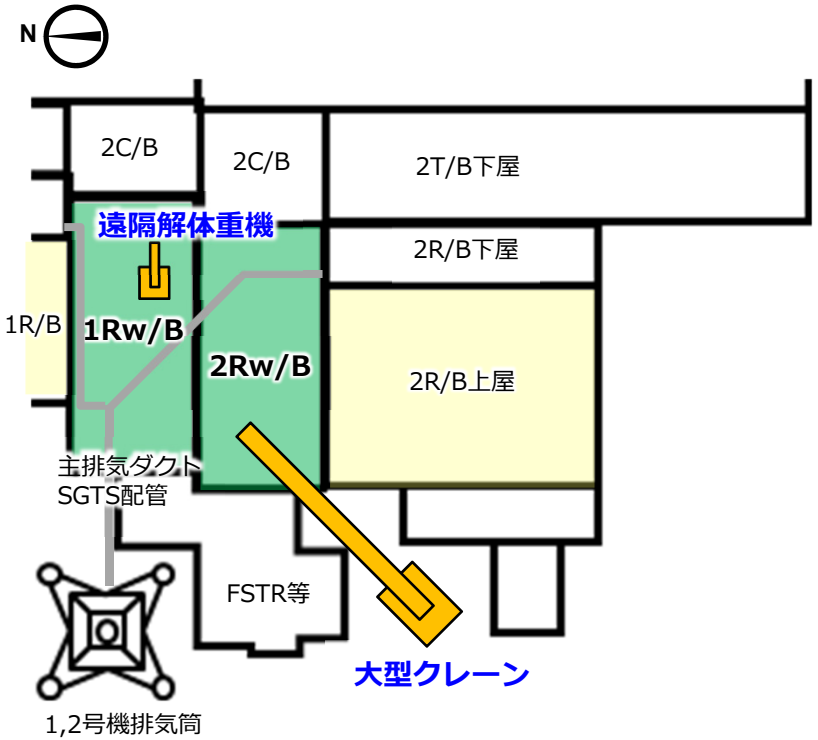
クレーン先端現況図

クレーン先端現況写真

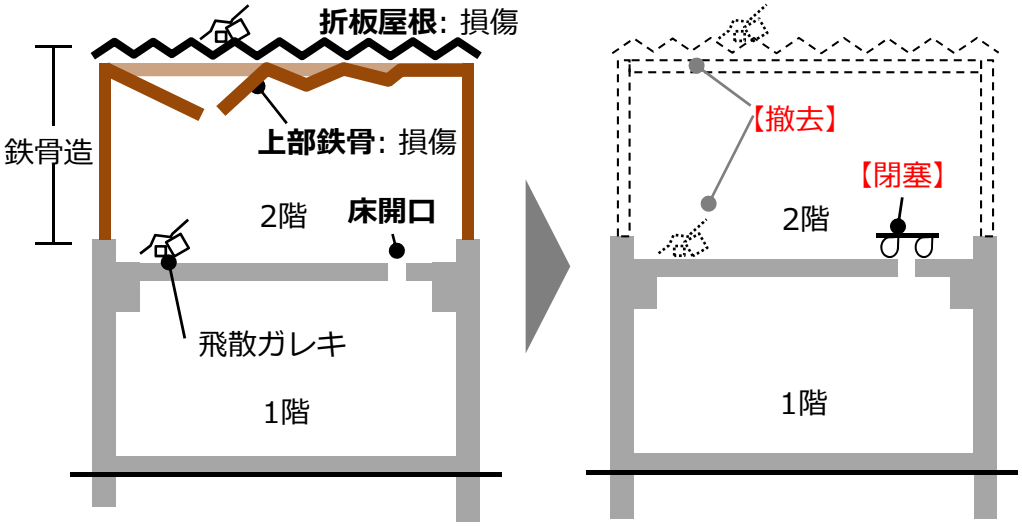
(参考) 1,2号機廃棄物処理建屋（1,2Rw/B）雨水流入対策

TEPCO

- 大型クレーン（無人）でカッターやフォークを用いて鉄骨ガレキ等を撤去する。
- 大型クレーンが届かないエリアについては、屋根面に遠隔解体重機を載せて撤去する。
- 1,2号機排気筒解体と作業ヤードが干渉するため、排気筒解体後に1,2Rw/B雨水流入対策を実施する。



エリア配置図



現状　　対策後

カッター

フォーク

遠隔解体重機

（参考）サブドレン208ピット稼働停止の影響評価（通常時）

TEPCO

- これまでの凍土壁等の重層的な対策により、45基のサブドレンのうちの一部のサブドレンがメンテナンス等で一定期間停止し、稼働率が低下した場合においても、建屋周辺の地下水位を低位に維持できる状況。
- 過去のNo208の停止中においても、周辺サブドレン（No18,19）のくみ上げ量に大きな変化はなかったことから、建屋周辺の地下水位は維持されていたと推定。
- 以上より、No208が一定期間停止した場合でも、地下水位の上昇は抑制可能であり、建屋流入量にはほとんど影響しないと考えられる。

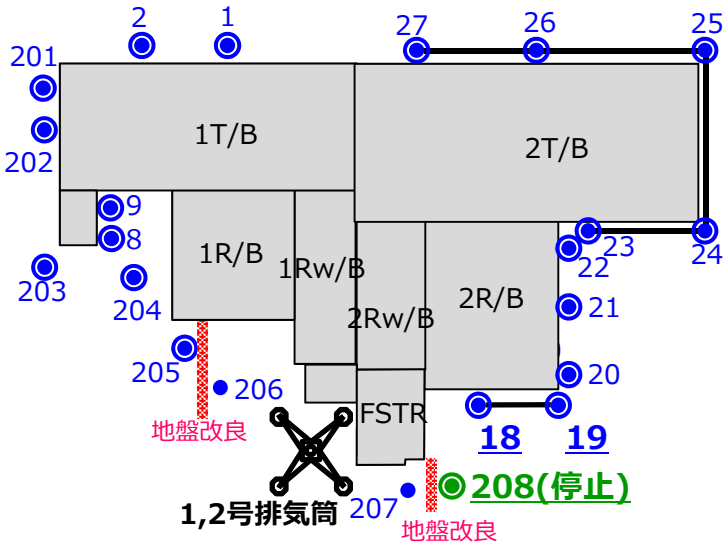
（参考）

・直近（4/9～5/12）のNo.208を停止した際のNo.18,19の水位を図1に示す。

・No.208の停止前後でNo.18,19のくみ上げ量（ポンプ起動回数）に変化はなく、No18,19周辺の地下水位は208停止後も維持できていると考えられる。

※No.208停止した場合に主に影響を受けるのは、周辺サブドレン(No.18,19)である。

※No.207は、排気筒周辺地盤改良により現在はNo.208の水位連動が小さくなっている。



サブドレン配置図

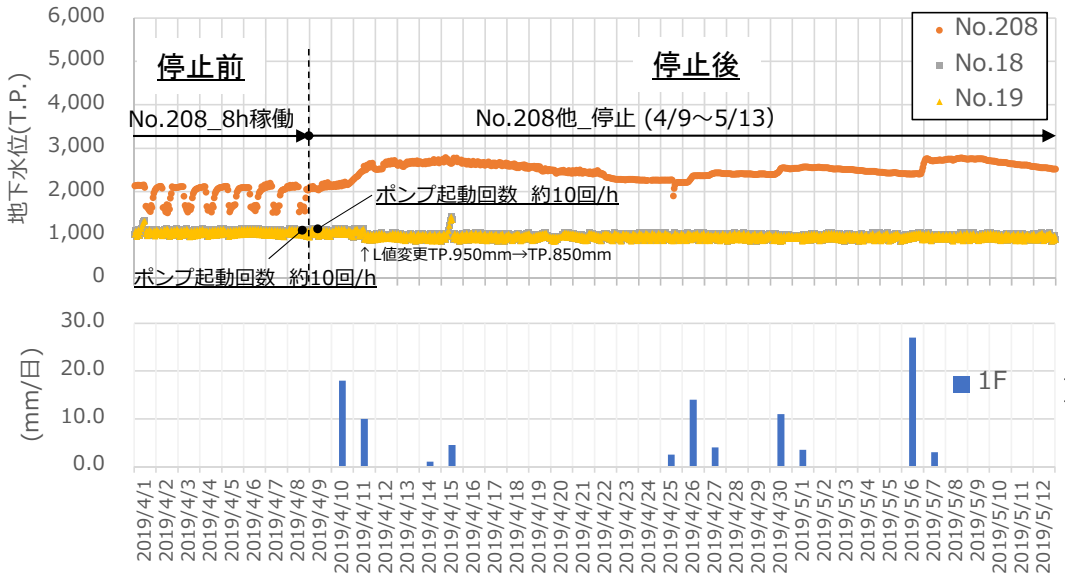
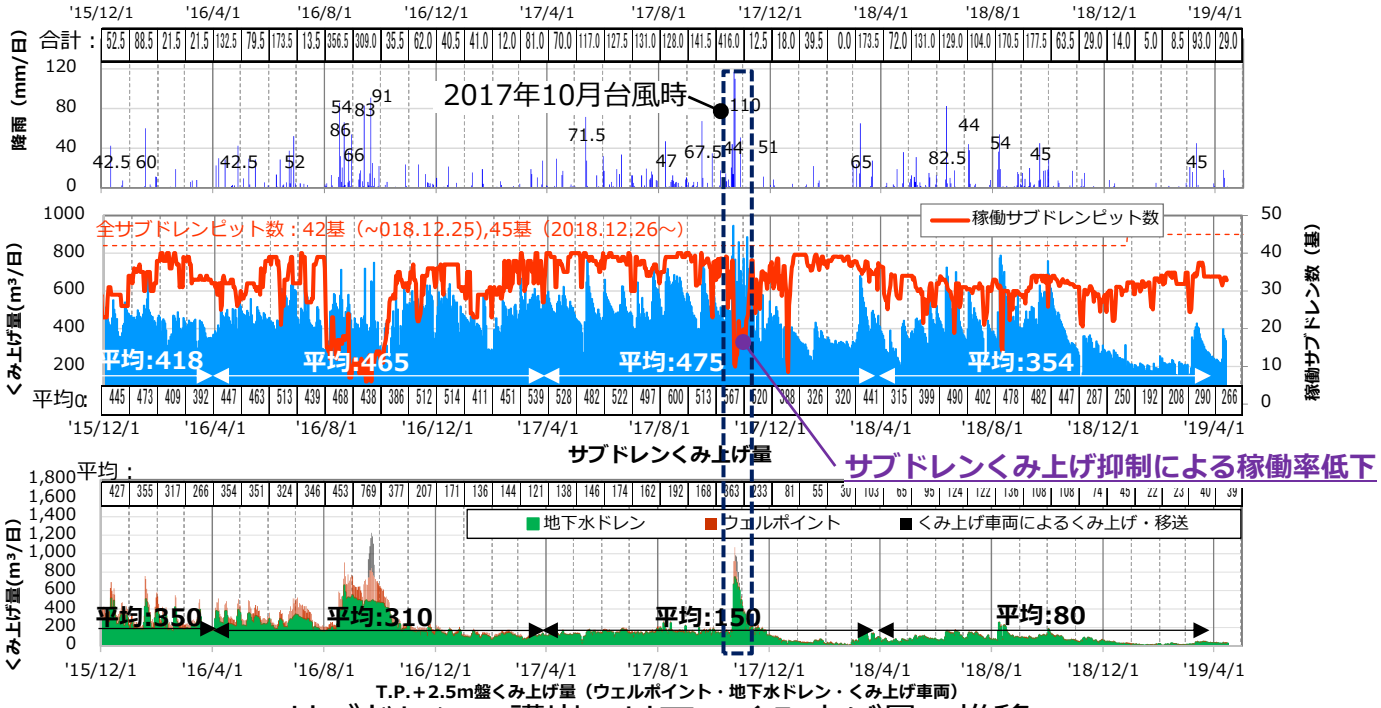


図1 No.208停止前後のNo.18,19稼働状況

（参考）サブドレン208ピット稼働停止の影響評価（台風時）

TEPCO

- 2017年10月台風時において、大雨の影響でサブドレンや地下水ドレンのくみ上げ量が増加し、くみ上げ量が処理能力を上回る見通しとなったため、護岸エリアのくみ上げを優先し、サブドレンの稼働を抑制（稼働ピット数 約12基※1/42基）した結果、全サブドレンの平均水位は約2.8m上昇※2し、地下水起因の建屋流入量も増加。　※1_2017年10月23日、24日の平均稼働数　※2_2017年10月21日と24日の日平均水位比較
- 一方、2018年3月にサブドレン設備の増強が完了し、900m3/日から1500m3/日に処理能力が向上していることから、現状では、サブドレンを稼働抑制することなく、最大限稼働することで地下水位の上昇を抑制することが可能となっている。
- このため、仮にNo208の停止中に、 2017年10月台風と同程度の大雨があったとしても、当時よりも地下水起因の建屋流入量を抑制することが可能と考えられる。
- なお、豪雨時の汚染水発生量増加のリスクを低減する観点から、No208の停止期間を極力短くすることとし、今秋の台風期（9月）前の復旧を図る。



サブドレン・護岸エリアのくみ上げ量の推移

東京電力ホールディングス株式会社
2019年5月30日

使用済燃料等の保管状況

保管場所	保管体数（体）				取出し率	（参考）2011/3/11時点	備考
	使用済燃料プール		新燃料貯蔵庫				
	新燃料	使用済燃料	新燃料	合計			
1号機	100	292	0	392	0.0%	392	
2号機	28	587	0	615	0.0%	615	
3号機	45	514	0	559	1.2%	566	
4号機	0	0	0	0	100.0%	1,535	
5号機	168	1,374	0	1,542	0.0%	1,542	・2011/3/11時点の体数は炉内含む
6号機	198	1,456	230	1,884	0.0%	1,704	・2011/3/11時点の体数は炉内含む ・使用済燃料プール保管新燃料のうち180体は4号機新燃料
1～6号機	539	4,223	230	4,992	21.4%	6,354	

保管場所	保管体数（体）			保管率	（参考）保管容量	備考
	新燃料	使用済燃料	合計			
乾式キャスク仮保管設備	0	2,033	2,033	69.4%	2,930	キャスク基数37　（容量：50基）
共用プール	31※1	6,081	6,112	89.9%	6,799	ラック取替工事実施により当初保管容量6,840体から変更

	保管体数（体）		
	新燃料	使用済燃料	合計
福島第一合計	800	12,337	13,137

※1：前回（2019/4/25）報告時の値：24
3号機から取り出した7体の新燃料の
共用プールへの移送完了（2019/4/25）

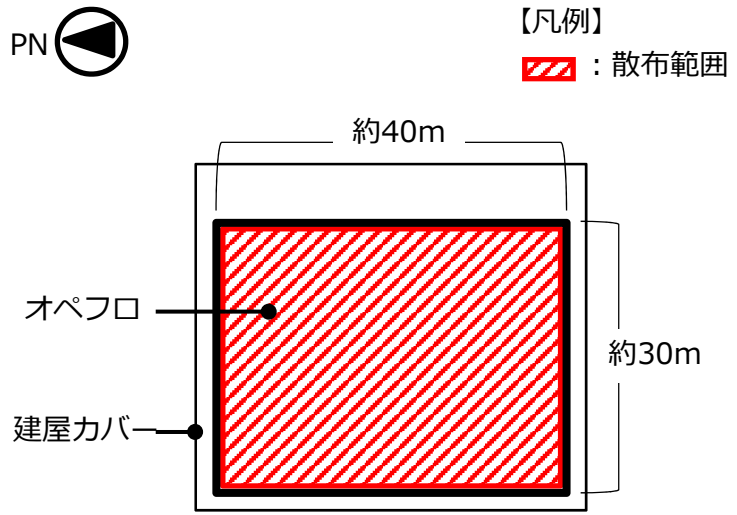
1号機飛散防止剤散布実績及び予定
3号機オペレーティングフロアの連続ダストモニタの計測値

2019/5/30

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1.定期散布（1号機）

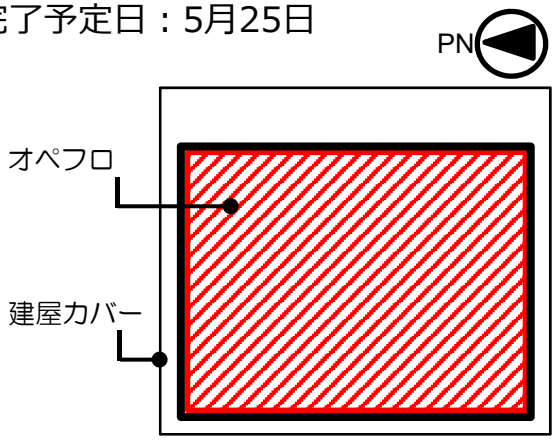
定期散布	
目　的	オペレーティングフロア（以下、オペフロ）上へ飛散防止剤を定期的に散布し、ダストの飛散抑制効果を保持させることを目的とする。
頻　度	1回/月
標準散布量	1.5L/㎡以上
濃　度	1/10
散布範囲	
散布面積	1,234㎡

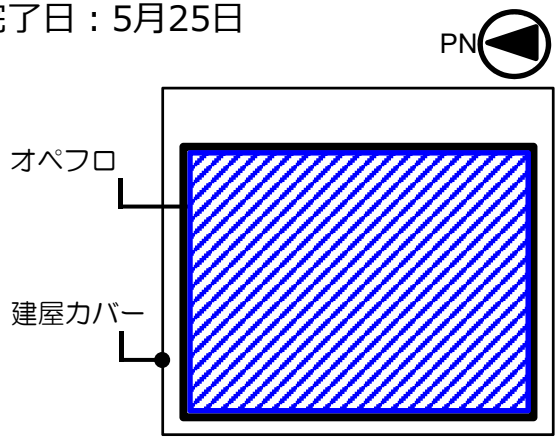
2.作業時散布・定期散布の実績及び予定（1号機）

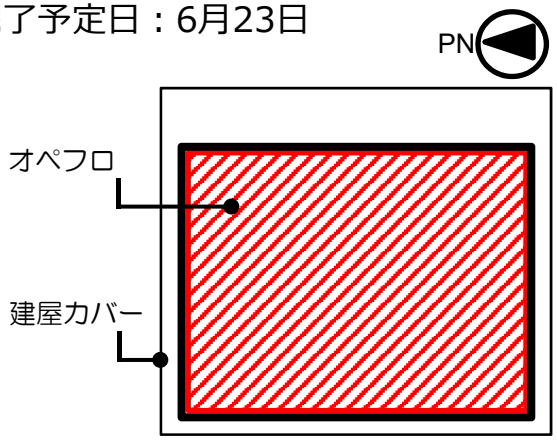
TEPCO

作業時散布			
目　的	オペフロ上での（ガレキ撤去や除染等）作業に応じて、飛散防止剤を散布し、ダストの飛散を抑制することを目的とする		
標準散布量	1.5L/㎡以上	濃　度	1/10
散布対象作業	北側ガレキ撤去		

定期散布の実績及び予定		
計画（5月）	実績（5月）	計画（6月）
完了予定日：5月25日	完了日：5月25日	完了予定日：6月23日





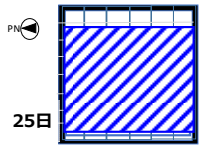


【凡例】：計画散布範囲　：実績散布範囲

2019年5月29日時点

3.作業時散布の実績及び予定（1号機）

TEPCO

									当該週の散布範囲
4月	日	21（日）	22（月）	23（火）	24（水）	25（木）	26（金）	27（土）	–
	散布対象作業	–	ガレキ撤去	ガレキ撤去	ガレキ撤去	–	–	–	
	散布面積合計（m2）	–	50	3	50	–	–	–	
	平均散布量（L/m2・回）	–	2	38.3	2.4	–	–	–	
	連続ダストモニタの計測値（Bq/cm3）※1	2.00E-04 （最大） ND （最小）	1.89E-04 （最大） ND （最小）	2.42E-04 （最大） ND （最小）	2.04E-04 （最大） ND （最小）	1.70E-04 （最大） ND （最小）	1.95E-04 （最大） ND （最小）	2.19E-04 （最大） ND （最小）	
5月	日	28（日）	29（月）	30（火）	1（水）	2（木）	3（金）	4（土）	–
	散布対象作業	–	–	–	–	–	–	–	
	散布面積合計（m2）	–	–	–	–	–	–	–	
	平均散布量（L/m2・回）	–	–	–	–	–	–	–	
	連続ダストモニタの計測値（Bq/cm3）※1	1.74E-04 （最大） ND （最小）	1.89E-04 （最大） ND （最小）	1.74E-04 （最大） ND （最小）	2.14E-04 （最大） ND （最小）	1.61E-04 （最大） ND （最小）	1.88E-04 （最大） ND （最小）	2.00E-04 （最大） ND （最小）	
	日	5（日）	6（月）	7（火）	8（水）	9（木）	10（金）	11（土）	–
	散布対象作業	–	–	–	ガレキ撤去	ガレキ撤去	ガレキ撤去	ガレキ撤去	
	散布面積合計（m2）	–	–	–	50	50	5	50	
	平均散布量（L/m2・回）	–	–	–	2	2	2	2	
	連続ダストモニタの計測値（Bq/cm3）※1	2.24E-04 （最大） ND （最小）	1.18E-04 （最大） ND （最小）	1.33E-04 （最大） ND （最小）	1.51E-04 （最大） ND （最小）	2.05E-04 （最大） ND （最小）	1.61E-04 （最大） ND （最小）	1.59E-04 （最大） ND （最小）	
	日	12（日）	13（月）	14（火）	15（水）	16（木）	17（金）	18（土）	–
	散布対象作業	ガレキ撤去	ガレキ撤去	ガレキ撤去	ガレキ撤去	ガレキ撤去	ガレキ撤去	ガレキ撤去	
	散布面積合計（m2）	150	100	5	55	133	–※2	3	
	平均散布量（L/m2・回）	2	2	3	2.3	1.6	–※2	3.3	
	連続ダストモニタの計測値（Bq/cm3）※1	1.18E-04 （最大） ND （最小）	2.72E-04 （最大） ND （最小）	1.69E-04 （最大） ND （最小）	2.41E-04 （最大） ND （最小）	1.28E-04 （最大） ND （最小）	2.29E-04 （最大） ND （最小）	1.18E-04 （最大） ND （最小）	
	日	19（日）	20（月）	21（火）	22（水）	23（木）	24（金）	25（土）	
	散布対象作業	–	ガレキ撤去	–	ガレキ撤去	ガレキ撤去	ガレキ撤去	ガレキ撤去	
	散布面積合計（m2）	–	3	–	103	50	3	(定期散布実施)	
	平均散布量（L/m2・回）	–	3.3	–	2	2	3.3	(定期散布実施)	
	連続ダストモニタの計測値（Bq/cm3）※1	1.57E-04 （最大） ND （最小）	1.03E-04 （最大） ND （最小）	1.26E-04 （最大） ND （最小）	1.16E-04 （最大） ND （最小）	1.62E-04 （最大） ND （最小）	2.07E-04 （最大） ND （最小）	2.07E-04 （最大） ND （最小）	
	日	26（日）	27（月）	28（火）	29（水）	30（木）	31（金）	1（土）	–
	散布対象作業	ガレキ撤去	ガレキ撤去	ガレキ撤去	–	–	–	–	
	散布面積合計（m2）	50	100	100	–	–	–	–	
	平均散布量（L/m2・回）	2	2	2	–	–	–	–	
	連続ダストモニタの計測値（Bq/cm3）※1	2.10E-04 （最大） ND （最小）	2.03E-04 （最大） ND （最小）	1.47E-04 （最大） ND （最小）	– （最大） – （最小）	– （最大） – （最小）	– （最大） – （最小）	– （最大） – （最小）	

※1　表記の連続ダストモニタ計測値は速報値、ND=不検出

2019年5月29日時点

※2　SFPの縁に引っかかっている金属片のみ回収。作業後の飛散防止剤散布はなし。なお、ダストモニタに有意な変動が無いことを確認。

４.オペレーティングフロアの連続ダストモニタの計測値（3号機）

TEPCO

									当該週の散布範囲
4月	日	21（日）	22（月）	23（火）	24（水）	25（木）	26（金）	27（土）	–
	散布対象作業※4	–	–	–	–	–	–	–	
	散布面積合計（m2）	–	–	–	–	–	–	–	
	平均散布量（L/m2・回）※1	–	–	–	–	–	–	–	
	連続ダストモニタの計測値（Bq/cm3）※2	3.07E-05（最大） ND※3（最小）	3.01E-05（最大） ND※3（最小）	2.88E-05（最大） ND※3（最小）	2.97E-05（最大） ND※3（最小）	2.68E-05（最大） ND※3（最小）	3.30E-05（最大） ND※3（最小）	3.61E-05（最大） ND※3（最小）	
5月	日	28（日）	29（月）	30（火）	1（水）	2（木）	3（金）	4（土）	–
	散布対象作業※4	–	–	–	–	–	–	–	
	散布面積合計（m2）	–	–	–	–	–	–	–	
	平均散布量（L/m2・回）※1	–	–	–	–	–	–	–	
	連続ダストモニタの計測値（Bq/cm3）※2	3.68E-05（最大） ND※3（最小）	4.11E-05（最大） ND※3（最小）	2.37E-05（最大） ND※3（最小）	3.14E-05（最大） ND※3（最小）	3.43E-05（最大） ND※3（最小）	3.23E-05（最大） ND※3（最小）	3.19E-05（最大） ND※3（最小）	
	日	5（日）	6（月）	7（火）	8（水）	9（木）	10（金）	11（土）	–
	散布対象作業※4	–	–	–	–	–	–	–	
	散布面積合計（m2）	–	–	–	–	–	–	–	
	平均散布量（L/m2・回）※1	–	–	–	–	–	–	–	
	連続ダストモニタの計測値（Bq/cm3）※2	2.68E-05（最大） ND※3（最小）	3.68E-05（最大） ND※3（最小）	2.33E-05（最大） ND※3（最小）	3.32E-05（最大） ND※3（最小）	4.15E-05（最大） ND※3（最小）	4.37E-05（最大） ND※3（最小）	2.88E-05（最大） ND※3（最小）	
	日	12（日）	13（月）	14（火）	15（水）	16（木）	17（金）	18（土）	–
	散布対象作業※4	–	–	–	–	–	–	–	
	散布面積合計（m2）	–	–	–	–	–	–	–	
	平均散布量（L/m2・回）※1	–	–	–	–	–	–	–	
	連続ダストモニタの計測値（Bq/cm3）※2	3.29E-05（最大） ND※3（最小）	2.13E-05（最大） ND※3（最小）	4.75E-05（最大） ND※3（最小）	2.68E-05（最大） ND※3（最小）	2.77E-05（最大） ND※3（最小）	4.28E-05（最大） ND※3（最小）	2.74E-05（最大） ND※3（最小）	
	日	19（日）	20（月）	21（火）	22（水）	23（木）	24（金）	25（土）	–
	散布対象作業※4	–	–	–	–	–	–	–	
	散布面積合計（m2）	–	–	–	–	–	–	–	
	平均散布量（L/m2・回）※1	–	–	–	–	–	–	–	
	連続ダストモニタの計測値（Bq/cm3）※2	3.98E-05（最大） ND※3（最小）	4.06E-05（最大） ND※3（最小）	2.86E-05（最大） ND※3（最小）	2.37E-05（最大） ND※3（最小）	3.59E-05（最大） ND※3（最小）	3.57E-05（最大） ND※3（最小）	2.86E-05（最大） ND※3（最小）	
	日	26（日）	27（月）	28（火）	29（水）	30（木）	31（金）	1（土）	–
	散布対象作業※4	–	–	–	–	–	–	–	
	散布面積合計（m2）	–	–	–	–	–	–	–	
	平均散布量（L/m2・回）※1	–	–	–	–	–	–	–	
	連続ダストモニタの計測値（Bq/cm3）※2	3.92E-05（最大） ND※3（最小）	5.29E-05（最大） ND※3（最小）	2.81E-05（最大） ND※3（最小）	–（最大） –（最小）	–（最大） –（最小）	–（最大） –（最小）	–（最大） –（最小）	

※1　平均散布量は作業前、作業後に分けて記載　　※2　表記の連続ダストモニタ計測値は速報値　　※3　ND=不検出　　平成31年5月29日時点

※4　遮へい体設置完了に伴い定期・作業時散布は終了